資料２

令和７年度 「真のワーク・ライフ・バランス」の推進について

京都市では、国における働き方改革関連法、女性活躍推進法や育児・介護休業法の改正、コロナ禍での女性に対する影響等の状況を踏まえ、国（労働局）、京都府、経済団体等とも連携しながら、「働き方改革」、「女性活躍推進」、「真のワーク・ライフ・バランス」の「見える化」、不安を抱える女性に寄り添った事業等に取り組んだ。

１　「真のワーク・ライフ・バランス」の「見える化」等の取組

（１）シティリビング連載「しごと・かてい・ちいき　応援企業」

主にオフィス等に配布されるフリーペーパー・シティリビングにおいて、「真のワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組む企業や団体で働く人物に焦点を当てて紹介する連載記事を掲載した。

＜掲載内容＞

発行時期	取材企業	企業の取組内容
10/31	株式会社クレバー	建築分野の職人における女性活躍
11/28	株式会社西田製作所	若手からシニアまでが無理なく働ける健康経営
1/30	アミタホールディングス株式会社	余った有給休暇をプールして共有するなど働き方改革

実施効果・評価

令和７年度は、１０月、１１月、１月に３社の取材記事を掲載した。それぞれの企業が幅広く、また特色ある取組を行っており、従業員の健康や働き方について前向きに取り組んでいる企業の紹介ができた。市内のオフィス・地下鉄駅等で各号４万部が配布される当該フリーペーパーにより、企業の先進的な取組事例の横展開を促進した。

（２）京都 style「真のワーク・ライフ・バランス」応援ＷＥＢの運用

京都 style「真のワーク・ライフ・バランス」応援ＷＥＢにおいて、多様な働き方に関する補助金、厚生労働省や京都府の実施している育休研修、育児介護休業法の改正などの企業や市民向け情報、働き方改革の取組事例等を紹介した。

実施効果・評価

ホームページへのアクセス数 11,062 件。

企業や市民向けの講座や国の制度など幅広い情報を企業・市民に発信した。

（３）家事・育児参画講座の実施

受講者を男性に限定せず、パートナー同士での参加により、仕事と育児の両立を目指す講座として、「ワーキングペアレンツに贈る　自分らしいライフ・キャリア発見！セミナー」を実施した。３回連続講座で、通しでの参加を推奨しつつ、回ごとの参加も可能とした。

※子どもの体調不良による欠席が多かったため、講義とクロストークを録画したうえ後日、申込者に動画を提供した。

第１回　10/5　　男性が子育ても仕事もできる環境って？
第２回　11/8　　女性が働き続けるために必要なことって？
第３回　11/29　自分らしい未来を見つけよう

実施効果・評価

延べ１７名受講。第１回は男性が育児に参入することへの課題、第２回は女性が働き続けることへの課題を学び、第３回では自分らしいキャリアプラン、ライフプランを立てることについて学んだ。自分も家族も笑顔でいられるためにはどうしたらよいか、男女それぞれの視点から考えることのできる機会となった。

開催時期とプール熱等の感染症流行が重なり、子の体調不良による欠席が多く、オンライン開催の有効性が認識された。

２　女性活躍の推進

（１）オール京都での女性活躍推進等

国、京都府、経済団体、労働界等の関係団体と連携したオール京都体制「輝く女性応援京都会議」（平成２７年３月発足）を運営主体としてオール京都で様々な取組を推進した。

ア　キャリア応援！女性デジタルスクール

内容：　就業のため即戦力となるスキルの習得を目指すカリキュラムに、就職や企業までのフォローアップを加えた、一体的なサポートを行うセミナーを開催した。

実施効果・評価

受講者８名全員が個別の専門コースと集合研修に加え、e-ラーニングを活用した自主学習を並行して行うことで、デジタルスキルの確実な習得とさらなるスキルアップを実現した。

事業終了後に行ったアンケートでは、グループワークやデータ分析スキル習得で満足度が高い一方、復習のための講義動画の受講者への提供、個人レッスンのペース調整などを求める声があったため、今後はこれらを踏まえて、学習支援体制の強化、受講ペースへの配慮、受講者とのコミュニケーション方法の充実等を図り、学習効果の最大化と受講者満足度向上を目指す。

イ　女子学生向けセミナー「ロールモデルに聞いてみよう！～ジェンダーから見たキャリア構築～」（京都女子大学で７月に実施）

内容：　京都商工会議所との連携により人選したロールモデルの女性経営者等による座談会形式のセミナーにより、女性が働き続けることやキャリアについて考える場を提供した。

実施効果・評価

計７名の女子学生が受講。地域企業で活躍する女性から、育児と仕事の両立やキャリア選択などについて経験談や助言を聞き、質疑応答する機会を提供。参加者は就職活動中の学生が多く、熱心に話を聞く様子が見られた。また、就活という点だけでなく多様な働き方やワーク・

ライフ・バランスについても考えるきっかけとなった、との感想が得られた。
今回は夏休み前の時期だったため、参加者が少数にとどまったため、今後の実施に当たっては学生のスケジュールを十分に踏まえて開催時期を設定する。

（２）不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業の実施

コロナ禍の影響から不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業として、令和３年７月から、ウィングス京都に加え、ＮＰＯ法人や福祉部局とも連携しながら取り組んでいる。

ア　相談事業の実施

ウィングス京都に令和３年７月に「つながる相談室」を設置し、有資格者による心理面での寄り添ったサポートを行うとともに、生活困窮者自立相談支援事業、京都市ＤＶ相談支援センター等、適切な関係先につなぐ取組を行った。

対　象：　京都市内に在住、在学、在勤の女性
受　付：　月～土（水曜日・祝日・年末年始は休み）午前１０～午後５時
　　電話・対面・オンライン相談

実施効果・評価

令和７年度相談件数は１１４件（令和６年度は１４０件）で、年々減少している。現状、「女性一般相談」も「つながる相談室」も区別なく相談を受け付けており、複数の窓口がありかえって分かりづらいという指摘もあることから、令和８年度からは、ウィングス京都「女性のための相談」と統合し、市民の皆様により便利に分かりやすい相談窓口の提供を行うこととした。

イ　「つながるスペース（居場所づくり）」（９月）

女性特有の健康問題である更年期障害に不安を抱く女性を対象に、更年期に現れる心身の不調と、それに伴う様々な症状についての知識とセルフケアを学ぶ場、また、同じ不安を抱える受講生同士で悩みを分かちあうことで安心できる居場所を提供するセミナーを開催。

名　称：「女性のための更年期ケアセミナー～もっとごきげん快適に～」参加者４１名
対　象：年期症状に不安を抱える女性（これから更年期を迎えるにあたり、不安を抱える女性も対象）

実施効果・評価

「同世代だと同じ悩みがあると共感や気づきが得られた」「老後へ向けての準備、自分を守るきっかけとなった」などの感想があり、参加者に必要な情報を届け、同じ悩みを抱える他者との交流によって安心感や新しい視点を得る場を提供できた。

ウ　「女性のための就業支援セミナー」（１０月～１１月）

様々な事情で経済的な自立を希望しつつ、働くことに不安を抱えている女性に対し、就業に関する様々な情報を提供し、不安の解消と就労に向けた具体的な一歩を踏み出すための講座を開催。

名　称：「女性のための経済的な自立支援セミナー」　全３回参加者計６８名
対　象：経済的な自立を目指す女性・働くことに不安がある女性

実施効果・評価

参加者の多くが４０代から５０代の女性で、半数以上が無職（就業経験あり）であった。

アンケート回答からも満足度は高く、「他の方の頑張りが刺激になった」「前向きになれた」と記述もあり、単なる知識提供に留まらず、同じ悩みを持つ女性同士が繋がることで、経済的な自立に向けた一歩を踏み出す場を提供できた。

エ　女性支援団体のための勉強会＆情報交換会（３月）

女性支援団体を対象に、今後も複数かつ複雑な問題を抱える対象者の重層的な支援につなげるため、令和７年度は京都中小企業家同友会のソーシャルインクルージョン委員会をゲストスピーカーに招き、民間企業における困難な問題を抱える女性を受け入れている事例を学び、民間企業と支援団体、また行政との連携の必要性について学ぶとともに、支援団体同士がグループに分かれ、情報共有の場を設けた。

実施効果・評価

参加は１４団体２２名。勉強会をきっかけに他の支援団体との相互交流が始まったという参加者もあり、満足度の高い会となった。